K O D O　C U L T U R A L　F O U N D A T I O N

鼓童文化財団

2010 年度 年次報告書

たたこう館まつりにて岬組の演奏／閉校になる小学校の太鼓チームを地域活動へと支援する

はじめに

まず、此の度の東日本大震災で未曾有の被害を受けられた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

此の度の被災地の多くは、古くから伝統芸能の宝庫と言われ、私共、鼓童にとりましては、多くのお教えをいただいた大恩のある、大切な地域であり、皆様です。私共、鼓童文化財団は、たとえそれが長い年月がかかろうとも、災害によって押し流され、消えかけた被災地の芸能文化の復興にわずかなりとも、お手伝いすることが、財団の使命とも考えて居ります。次年度の財団の活動として、具体的な立案実行を行う予定として居ります。

2011 年は鼓童にとって記念すべき年となります。すなわち、鼓童創立 30 周年、前史として鬼太鼓座を加えると 40 周年の年です。この 2011 年を迎えるに当たって、2010 年は財団として、更なる充実と前進への備え、すなわち今迄の道程についても反省と今後の行動・組織の再組立ての年でもありました。

太鼓体験交流館においては、メニューの充実により、修学旅行生、一般団体、個人旅行、外国人旅行者による体験も増加の兆しが見られ、今後の拡充を計っています。また当初から行ってきました地元との繋がりは「たたこう館まつり」を中心に地道な、具体的な活動を積み重ねており、今後の発展の兆しを感じて居ります。

新しい取り組みとしては、鼓童の公演やアース・セレブレーションを通じ、より佐渡の魅力と鼓童の背景～佐渡の自然と暮らし～を知っていただく為に、財団ならではの「佐渡の旅」を提供すべく「第三種旅行業」の取得とそれに伴う活動の準備も進めて居ります。

芸能調査研究に関しましては、佐渡各地に伝承されている多様な「鬼太鼓」を研究者、松田祐樹氏の主導のもとに「たたこう館」で系統的に順次公演、紹介し、交流が計られたことは画期的なことでした。今後とも財団の役割として、佐渡の皆様と共に「芸能の島・佐渡」を育むことを、担っていく覚悟で居ります。

また、鼓童 30 周年の記念出版物（鼓童叢書）の準備にも力を注いで参りました。鼓童のアーカイヴスの中では、鼓童がいかに多くの方々の支援の上に成り立って来たか今更のように知り、深い感謝の心を以て、鼓童の未来像を求めて居ります。

鼓童にとって多くの節目の年となる今年、鼓童文化財団は公益法人化を目指し準備を進めて居ります。今後一層、公益活動の具体的行動が求められると共に、財団の自立の為の経済的基盤の整備と、組織の充実が急務となり、それに努めて参ります。

皆様の更なるご支援とご教示の程、重ねてお願い申し上げます。

2011 年 4 月

財団法人　鼓童文化財団　理事長　島崎信

2010 年度 実施事業

（2010 年 1 月 1 日～ 2010 年 12 月 31 日）
文章中、特に明記のないものは佐渡島内の活動です。

1、ワークショップ、講演、シンポジウムなどの開催

太鼓は芸術的な表現媒体である前に、人と人、人と地域を結ぶコミュニケーションの手段であると私たちは考えます。鼓童文化財団では太鼓を使ったワークショップなどを積極的に開催し、演奏における技術指導よりも個々人の可能性をいかに引き出すかに重点をおいた実践研究を行なって、地域に根ざした社会活動の一環として取り組んでいきたいと思います。

■ 北米にて、唄のワークショップとコンサートツアー　7 月
講師：藤本容子　（KASA 主催事業）
ロサンゼルス・セバストポール・アラメダ・サンノゼ各都市
※ KASA ＝太鼓やそれに関連する芸能を通して、北米と日本との交流を築くことを目的としたカリフォルニアの NPO 団体

■ KASA/MIX ワークショップ（KASA 主催事業）9 月
鼓童文化財団研修所にて 3 泊 4 日の合宿を受け入れし、北米・ブラジル・オーストラリアから太鼓愛好者 25 名が参加
講師：藤本吉利

■ 鼓童塾（齊藤栄一の太鼓篇）　10 月
鼓童文化財団研修所にて 4 泊 5 日の合宿ワークショップ
日本各地・アメリカより 18 名の参加　講師：齊藤栄一

■ 研修生と佐渡の小中学生との交流公演
10 月　畑野中学校／両津小学校／金井中学校
6 月、10 月　松ヶ崎中学校交流会

■ 学生への授業および教育機関、地域との連携ほか
◎太鼓指導
・大井良明、藤本吉利、齊藤栄一
深浦小学校『岬太鼓』『岬組』　通年
・十河伸一　佐渡太鼓体験交流館における指導
島内学生／島外修学旅行生対象　通年
◎唄指導
・藤本容子　たたこう館：うたのワークショップ　1 月、2 月
深浦小学校、小木小学校ワークショップ　2 月
◎ワークショップ・演奏・交流会など
・鼓童文化財団研修生（指導：石原泰彦）
「日本自然環境専門学校　太鼓ワークショップ」5 月
「月布施公民館 30 周年記念演奏」　10 月
「岩首・漁港設備完成記念祝賀会演奏」　10 月
「両津地区・公立保育園ワークショップ」　10 月
「佐渡養護学校ふれあいコンサート」　12 月
◎講演など
・菅野敦司　「文化による地域振興について語り合う会」
京都・京丹波町　2 月
・上之山博文、研修生　「佐渡新卒者就職激励の会」2 月

研修所にて KASA/MIX ワークショップ

たたこう館にて地元岬太鼓への指導

たたこう館にて唄の連続ワークショップ

研修生の地域交流：月布施公民館 30 周年記念

2、伝統文化の再創造に関する研修および実践（研修所）

鼓童文化財団研修所では、広く内外から研修生を募集し、豊かな自然と芸能の宝庫である佐渡において、体験的学習を通して次代に伝えるべき＜新しい伝統＞の創造を目指します。研修制度は２年制で、１年目は伝統文化の基礎を研修する総合課程、２年目は鼓童の活動を通じて実践的な力を養う専門課程となります。

2010 年 4 月から 2011 年 1 月まで、佐渡市柿野浦の研修所（旧岩首中学校）で、1・2 年生合わせて 17 名が研修生活を送りました。

2011 年 1 月をもって 1 年 10 ヶ月の研修を修了した 28 期生は、小松崎正吾、佐伯篤宣、境晃史、立石雷、谷口風見花、蓑輪真弥の 6 名。それぞれの目標に向かい、学び舎を巣立ちました。このうち、小松崎正吾、立石雷、蓑輪真弥が 2011 年 2 月より小木の鼓童村に居を移し、準メンバーとして稽古をスタートさせました。

また、10 ヶ月の総合課程を修了した 1 年生は 11 名。安藤誠康、井上陽介、海藤洋平、木村寛大、木村匡宏、住吉佑太、花岡哲海、荒賀友夏子、安藤明子、金澤綾花、福嶋由香。そのうち 8 名が 2 年生に進級しました。2011 年 4 月には、新 1 年生 12 名が入所します。

■ 鼓童文化財団研修所パンフレット改訂

鼓童文化財団研修所の活動目的とカリキュラムを紹介する「鼓童文化財団研修所パンフレット」を改訂し 2010 年版を発行しました。これらは研修所入所希望者のほか、交流学校公演ツアー、8 月に宮崎県で開催された「全国高等学校総合文化祭」などで配布し PR しました。

■ 鼓童文化財団研修所にてテレビ番組収録

研修所にて、体験入門型のテレビ番組収録を受け入れました。4 月放送のテレビ朝日「熱血!ホンキ応援団」では中学 2 年生と高校 2 年生の 3 名、11 月放送の NHK 教育「ヒミツのちからんど」では小学校 4 年生 3 名に、齊藤栄一を講師として合宿生活を体験していただき、研修所の暮らしぶり・研修の様子を広く紹介する機会となりました。

3、アクション・ライブラリーの運営

鼓童の国内外での活動記録をはじめ、佐渡で開催している国際芸術祭「アース・セレブレーション」の足跡、および伝統文化についての調査研究・資料収集の成果を、広く国内外の方々に利用していただくための図書館を将来的に運営したいと計画しています。これは関連図書・音響映像・収集資料を展示紹介していくだけでなく、一般の方々がより親しみやすく相談し参加体験できる形を模索したアクション・ライブラリーとして「行動する図書館」を目指すもので、インターネットなどを通じて情報を公開していきたいと思います。

■ 書籍・ビデオ等約 10,000 冊、レコード 6,000 枚、CD14,000 枚などの資料管理や鼓童ホームページ（日本語、英語）の運営、管理を行っています。

研修生：鼓童舞台メンバーによる稽古

研修生：地元の柿野浦の若衆として祭りに参加

4、国際芸術祭　「アース・セレブレーション（EC）」の実施

鼓童が地元の佐渡市とともに実行委員会を組織し、'88 年より毎年開催している国際芸術祭を、今後ともその質的向上を目指して実施していきます。この芸術祭では、世界各地の民族音楽・芸能の専門家や研究者を招き、佐渡の自然の中で新しい「地球文化」の可能性を探るとともに、各地の伝統文化の紹介を通じてその振興をはかっています。海外からの参加者を積極的に働きかけて国際交流を促進し、次の世代への芸術的な基盤形成につとめます。

8/20 ～ 8/22、第 23 回となる「アース・セレブレーション」を開催。フランスのコルシカ島から、ポリフォニー（多声合唱）の男性グループ、ア・フィレッタを招聘し、城山公園の野外コンサートでは、シンプルで美しい歌声と太鼓のリズムが融合しました。今年は新たに小木町有志の皆さんの企画で、小木の名産の竹を使った竹風鈴を商店街に飾り付けて遠来からのお客様をおもてなしし、猛暑の夏、涼しげな音色が街に響きました。

出演者・講師（敬称略）

■ 城山コンサート　8/20 ～ 22

鼓童／ア・フィレッタ

■ ワークショップ、レクチャー等

・蘭情「蘭情さんの笛工房」

・狩野泰一「篠笛を吹いてみよう」（初心者篇）

・三宅島芸能同志会「三宅太鼓」

・小木さざ波会「小木おけさ」
・両津・春日鬼組「春日鬼太鼓」
・赤塚博明「小木の竹かご作り」
※以下、鼓童メンバーによるもの
・小島千絵子「千絵子流女打ちの基本」
・宮崎正美「打たにゃドンドン！」
・藤本吉利「あなたも大太鼓打ちに！」「鬼剣舞の基本踊り」

■ 特別フリンジ等
・三宅太鼓／三宅島芸能同志会（東京都）
・余韻 2010「波紋」／渡辺薫、タマンゴ、松田美緒
・「ゆきあひ EWF 女神」／小島千絵子、藤本吉利、
　齊藤栄一、辻勝（鼓童）、雲母☆、echo、渡辺薫
・狩野泰一、今泉孝文
・小木おけさ流し／小木の皆さん
・佐渡の芸能／春日鬼太鼓、四日町鬼太鼓、北川内豆まき・
　小獅子舞
・「cocon」／鬼澤綾子、宮崎正美、砂畑好江、齋藤菜月、
　島内博子（鼓童）
・鼓童パレード

■ 展示
・「ア・フィレッタの故郷 コルシカ島」

■ その他
・鼓童の会の会員の方を対象とした「城山コンサート会場バックステージツアー」／菅野敦司（鼓童）
・直江津駅と直江津港を結ぶシャトルバス運行実験
（トヨタ財団　地域社会プログラム助成）／協力：十文字修

■ 関連イベント
◎ EC プレイベント「太鼓体験塾」
　6/19 サンバ篇（佐和田・小木）　　講師：山口康子
　6/20、26 和太鼓篇（相川・赤泊）講師：宮崎正美
◎たたこう館太鼓体験ウィーク　8/13 ～ 19
　「しんちゃんせんせいと太鼓体験」佐渡太鼓体験交流館
◎「佐渡薪能公演」に協力（主催：佐渡観光協会）
　8/18 ～ 19
能：観世流 津村禮次郎ほか、狂言：和泉流 小笠原匡ほか、ダンス：森山開次、篠笛：狩野泰一

5、伝統文化に関する調査研究および資料収集

人類が長い年月を経てかたちづくり、伝えてきた世界各地の様々な伝統文化（特に民族音楽・芸能・工芸）、とりわけ佐渡を中心とした調査研究を行なうと同時に、その資料収集を積極的に進めます。

■ NPO 法人「佐渡芸能伝承機構」（松田祐樹代表）に協力し、佐渡の鬼太鼓の調査、映像資料収集の充実に努めました。調査研究成果･経過は、佐渡太鼓体験交流館にて開催のシリーズ『鬼太鼓の伝播を探る』のレクチャー・実演・座談会で発表してきました。

EC 城山コンサート：ア・フィレッタと鼓童

EC：城山バックステージツアー

EC 特別フリンジ：「佐渡の芸能」

EC ワークショップ：「小木の竹かご作り」

6、伝統文化研究者・文化活動制作者への支援

太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能の修得と、現代的な再創造を試みる集団「鼓童」。その鼓童に所属する研究者の調査・稽古・創作活動に対して支援を行なっています。また、文化活動の現場を支える制作者の受け入れや関連団体への派遣なども行ない、国内外での文化交流を推進します。

■ 小木三崎百年プロジェクト協議会

小木三崎地区の活性化に向けた取り組みを行うプロジェクト。小木三崎地区の中心にある広場として佐渡太鼓体験交流館が機能すべく、様々な協力をしています。各種催しのほか特産品の開発や流通の仕組み作り、体験学習のソフト開発や受け入れの仕組み作りなどを検討しました。

■ 廃校プロジェクト（トヨタ財団助成事業）に参加

廃校の再利用を通じて、過疎化に直面する地域社会の維持とコミュニティの再創造を基盤とした、地域活性化への実践的方途を地元住民と共に模索するプロジェクト。統廃合が顕著に進んでいる佐渡をフィールドに、主に 2011 年 3 月で統廃合となる深浦小学校、すでに廃校となっている二見小学校をモデルに、2010 年 8 月、地域のフィールドワーク調査を行いました。

7、年次報告書および関連図書の刊行

鼓童文化財団では、1 年間の活動を報告し、事業や財団施設の利用情報を提供する年次報告書を発行します。また、研究・創造活動の成果を発表する出版物も随時発行します。

■ 年次報告書を 4 月に発行し、鼓童の会の会員の方、鼓童文化財団に寄付を寄せてくださった方々にお届けしました。

■ 鼓童 30 周年記念出版プロジェクト

2011 年、鼓童 30 周年を機に本を出版することになりました。2009 年 4 月にプロジェクトを発足し、出版社、3 名の執筆者、デザイナー等外部スタッフの協力の元、2011 年 5 月末の刊行を目指し制作に取り組んでいます。鼓童の太鼓芸能集団としての活動記録として、また、鼓童を担う新しい世代に向けて鼓童のアイデンティティと未来像を示す資料として、また草創期から現在に至るまで支援してくださった方々に対する感謝を表すことを目的としています。

8、鼓童の会の運営

鼓童文化財団は鼓童の活動に社会的な価値を見いだし、共感する個々人によって支援される「鼓童の会」を運営します。毎月発行される機関誌を送付して活動への参加を呼びかけ、今後の事業に対する希望を募ります。

■ 鼓童の会の会員の方々に機関誌（月刊「鼓童」を年 11 回、あるいは英文季刊誌「Kodo Beat」を年 4 回）お送りしました。

2011 年 5 月を目指し、これまでの「友の会」「後援会」に加えて新たに二つの支援体制を準備しております。より一層、鼓童の活動に親しみを持っていただき、共感の輪を広げていけますよう努力して参ります。

たたこう館：「鬼太鼓の伝播を探る」

30 周年記念出版プロジェクト：過去の機関誌で歴史をたどる作業

9. アースファニチャー事業

■ 6 月、佐渡汽船両津港待合室のベンチの塗装などメンテナンス作業を、鼓童のスタッフと鼓童文化財団研修生が行いました。

10. 佐渡太鼓体験交流館の運営

佐渡太鼓体験交流館（愛称：たたこう館）運営の 4 年目を迎えた 2010 年度は、修学旅行生の太鼓体験受け入れに加え、一般、団体、個人旅行、外国人旅行者の拡充を目指し、週末の体験開始時間・料金設定などの充実を図りました。

霜月まつりでは佐渡島内で活動する太鼓グループを紹介し、また近隣の学校閉校に伴い、各種活動を地域に受け渡し、継続を考えるなど、島内の地域活動の相互理解、交流とネットワークづくりにも積極的に取り組んでいます。

2010 年 1 月から 12 月までの総来館者数は、 12,509 名
（うち太鼓体験者数 6,180 名）

【主な実施事業】
○太鼓体験…修学旅行（計 81 校：新潟県内小学校）／島内学校／地域活動／会社・団体／ PTA・子供会／佐渡ツアー
○そばうち体験
○施設貸出：和太鼓稽古、各種シンポジウム、刺し子教室、サークル活動、ワークショップ、イベント、勉強会、茶会など

○たたこう館まつり（皐月まつり／霜月まつり）

太鼓や郷土芸能披露に加え、刺し子や土人形の絵付けなどのものづくり体験企画、小木三崎の旬の味覚市、蕎麦や季節の丼物など地物を使ったメニュー開発に取り組む小木三崎カフェなど、一日楽しめるまつりとしてご好評いただきました。

○ 12 月企画公演：「ちんどん鼓童（こどん）」12 月

鼓童の通常の公演とは趣きを変えて、小さなお子様から大人まで楽しめる、「あったかほのぼの」がキーワードの佐渡限定の企画。12 月の恒例として定着してきました。

たたこう館：霜月まつり　佐渡の太鼓団体が一堂に会した

たたこう館：12 月恒例企画「ちんどん鼓童」

11. その他

■ 鼓童ホームページ（日本語・英語）にて、活動情報を国内外にタイムリーに発信しています。年間を通じて 30 万件を超えるアクセスをいただいています。

■ 公益法人制度改革に伴い、公益財団法人移行申請の準備をしてきました。2011 年 5 月に新潟県に申請、秋の認定を目指します。

■ 2010 年 12 月の理事会において、常務理事の青木孝夫が退任、代わって菅野敦司が就任しました。

■ 1997 年の設立当初から当財団の評議員を務めてくださり、また鼓童を長年にわたり見守り続けてくださっていた本間雅彦氏が 6 月に逝去されました。これまでのご厚情に感謝すると共にご冥福をお祈りいたします。

2010 年度 決算

貸借対照表　2010 年 12 月 31 日現在　（単位：円）

I　資産の部		
流動資産	現金	827,897
	預金	2,948,927
	未収金	6,713,294
	仮払金	2,738,530
	その他	2,076,950
	流動資産合計	15,305,598
固定資産	基本財産	100,211,931
	その他の固定資産合計	442,320
	固定資産合計	100,654,251
	資産合計	115,959,849
II　負債の部		
流動負債	未払金	10,166,244
	その他	2,214,057
	負債合計	12,380,301
III　正味財産の部		
正味財産		103,579,548
負債及び正味財産合計		115,959,849

正味財産増減計算書　2010 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで（単位：円）

I　正味財産増減の部	
1.　経常増減の部	
(1)　経常収益	
1. 基本財産運用収入	167,764
2. 会費収入	8,273,630
3. 事業収入	38,535,487
4. 寄付金収入	6,052,000
5. 雑収入	2,065,879
6. 事務局収入	604,811
経常収益計	55,699,571
(2)　経常費用	
1. 事業費	48,003,932
2. 管理費	1,714,619
経常費用計	49,718,551
当期正味財産増減額	5,981,020
正味財産期首残高	97,756,192
II　正味財産期末残高	103,737,212

2011 年度 事業計画

1. ワークショップ、講演、セミナーなどの開催
   (1) 太鼓体験塾 (島内 5 回)
   (2) 鼓童塾　太鼓篇（1 回）
   (3) 研修生と佐渡の中学生との交流公演（10 月／ 3 回）
   (4) 地域の学校への出前授業および交流
   (5) KASA・北米ワークショップツアー（3 月）
   (6) 文京区提携事業

2. 伝統文化の再創造に関する研修および実践（研修所）
   (1) 総合課程（1 年次）: 芸能、暮らしの基本を学ぶ
   4 月～翌 1 月　約 12 名
   (2) 専門課程（2 年次）:鼓童メンバー育成に向けて、舞台・スタッフ志望別研修　2 月～翌 1 月　約 8 名

3. アクション・ライブラリーの運営
   (1) 民俗芸能関係の収集資料の整理
   (2) 図書・映像資料の整理
   (3) 図書管理システムの運用
   (4) インターネット・ホームページの運営

4. 国際芸術祭「アース・セレブレーション」の共催
   (1) 城山コンサート、ワークショップほか
   (2) EC エコロジー企画
   (3) 地域資源活用型企画

5. 伝統文化に関する調査研究および資料収集
   (1) 鼓童舞台演目の現地調査研究
   (2) 鬼太鼓調査研究

6. 伝統文化研究者・文化活動制作者への支援
   (1) 鼓童メンバー研修支援
   (2) 小木三崎百年プロジェクト

7. 年次報告書および関連図書の刊行
   (1) 年次報告書の発行
   (2) 鼓童 30 周年記念誌発行

8. 鼓童の会の運営
   (1) 月刊機関誌「鼓童」、
   季刊英字機関誌「Kodo Beat」の発送
   (2) 名簿の管理
   (3) 会員募集、支援会員（仮称）の創設

9. アースファニチャー事業
   アースファニチャー佐渡の企画販売、メンテナンス

10. 佐渡太鼓体験交流館の運営
   (1) ワークショップ、伝統料理教室、ミニコンサート、講演等
   (2) 佐渡の地域活性化と観光振興（旅行業登録）

11. その他
   広報活動など

財団法人　鼓童文化財団　役員・評議員 (2011 年 4 月 1 日現在、50 音順)

理事長	島崎　信	武蔵野美術大学名誉教授
副理事長	山口幹文	鼓童演出顧問
常務理事	菅野敦司	鼓童役員
理事	浅野昭利	財団法人浅野太鼓文化研究所理事長
	髙野宏一郎	佐渡市長
	森　千二	音楽プロデューサー
監事	荒井久夫	税理士
	佐藤一行	鼓童会計顧問
評議員	五十嵐實	税理士、日本自然環境専門学校長
	伊藤文吉	財団法人北方文化博物館館長
	永　六輔	作家
	佐々木　愛	劇団文化座代表、女優
	関原　剛	協同組合ウッドワーク顧問
	等々力好泰	新潟トヨタ自動車株式会社社長
	冨田　勲	作曲家
	中川忠夫	元小木町長
	姫田忠義	民族文化映像研究所所長
	クリストファー・遥盟・ブレイ ズデル	尺八演奏家、国際文化会館芸術プログラムアドバイザー
	ロビン・ベリントン	元駐日アメリカ大使館 文化参事官
	マーク・ロス	ダイオラマ文化センター　ディレクター
	武者利光	東京工業大学名誉教授、ゆらぎ研究所、脳機能研究所所長

2010 年度 寄付者一覧

2010 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに寄付をくださった方々は以下の通りです。（敬称略。1 口 1,000 円）

150 口　五十嵐實
100 口　佐伯洋
50 口　㈶浅野太鼓文化研究所、岩田丈（ギフ舞台工芸）、岩田雅、遠藤千枝子、堀口智顕
40 口　鼓童ウェブログ修学旅行
30 口　安藤卓也、石田一子、内田和子、日下敞啓、佐々木愛、蘭情
20 口　藤井賢一郎、武井京子、浅野昭利、浅野恭央、宮崎正隆
15 口　正木省三
10 口　阿久津澄子、荒賀八重美、池辺晋一郎、石垣清美、伊藤正依、臼井幹夫、太田厚生、小倉睦美、鬼澤信夫、鹿島泰明、北澤幹男、木村実、小杉五郎、佐藤惇、志和正美、新崎美恵子、鈴木健彦、高橋堅治、田辺和子、谷口道子、珠山信孝、土師慶子、春本博章、　舟見正子、細野美津子、本田正、本間晴彦、安田恵美子、藪内佐斗司、山岸稔秋、山﨑延子

以上：計　1,145,000 円

うち、2010 年度重点支援事業内訳
・研修所：289,000 円
　主な使途＝長胴太鼓、附締太鼓皮張替
・佐渡太鼓体験交流館：68,000 円
　主な使途＝ホームページ更新用ソフトウェア、書籍購入

※ 年次報告書への名前掲載を希望しない方の寄付金額、および 10 口以下の方の寄付金額の小計　4,907,000 円

2010 年度　寄付総額　6,052,000 円

たくさんのご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

たたこう館にて：2010 年度　28 期研修生修了式

※ 財団へのご支援、ならびに東日本大震災への義援金をお願いいたします。

財団法人　鼓童文化財団は、趣旨に賛同くださる皆様のご寄付と、鼓童の会の会費により活動を進めております。

例年のように、この場で寄付のお願いをすると共に、今回は、震災への義援金につきましてもご協力をお願いいたします。日本赤十字社を通じて、被災地のために役立てていただきます。

鼓童文化財団は、地域に根付いた豊かな生活文化と切り離されることを余儀なくされた被災地の皆様へ気持ちを沿わせ、この佐渡の地域文化に生かされている者として、現地へ向け、また佐渡へ避難して来られた方々に対しても、これから先、できることを考え活動していく所存でございます。

義援金のみのご送金でも構いませんので、何卒、皆様のご協力をお願い申し上げます。（詳しくは同封の案内をご覧ください）

［寄付］

■ 寄付は 1 口 1,000 円単位で随時受け付け、毎年 4 月に発行する年次報告書をお送りします。年に 10 口以上お申し込みいただいた方には、年次報告書にご希望によりお名前と金額を掲載させていただきます。

■ ご送金は、同封の申込書、郵便振替用紙に、お名前、ご住所、義援金、寄付の金額の内訳などをお書き添えの上、「00690 - 9 - 25829（財）鼓童文化財団」宛にお願いします。

財団への寄付は、鼓童の会の会費とは異なります。また、寄付金控除として所得から差し引くことはできませんのでご注意下さい。

［鼓童の会］

鼓童グループは、公演企画制作や商品開発、販売業務を行う（株）北前船と、著作権管理を行う（有）音大工、そして（財）鼓童文化財団という 3 つの法人で構成されています。研修所の運営や伝統文化の調査研究などを行う財団の事業は、鼓童の活動の根幹を担うものです。

鼓童文化財団は、寄付金と共に鼓童の会の会費が大きな収入となっております。2011 年 5 月には、「友の会」「後援会」に加え、新支援体制を準備中です。今後の機関誌やホームページでご案内をいたしますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

財団法人　鼓童文化財団　2010 年度 年次報告書　2011 年 4 月 10 日発行
発行責任者…島崎信、編集…菅野敦司、千田倫子
写真…宮川舞子、南しずか、田中文太郎、鼓童

財団法人 鼓童文化財団：
〒952-0611 新潟県佐渡市小木金田新田 148-1 鼓童村
TEL. 0259-81-4100　FAX. 0259-86-3631
E-mail. zaidan@kodo.or.jp
http://www.kodo.or.jp